

江戸時代の山陰道

つわのちょう はつくつ きんせいさんいんどう のさかとうげご いわみ ちょうしゅう
津和野町で発掘された近世山陰道（野坂峠越え）は、江戸時代、石見と長州（山口）を
結ぶ経済・文化交流のメインルートでした。道路の基礎や坂道での踏み石に使われた石敷き、
そっこう はいすいろ
側溝、排水路が残り、現代の道路と同じくらいの強度を持っていたようです。



津和野町で、江戸時代の山陰道（野坂峠越え）が発掘されました。

上の2枚の写真を見て、道路の造り方や
気がついたことをまとめてみましょう。

- 道はばが広いのですれちがいがしやすい。
- 石をしいている。
- みぞがあるので、はい水がよいのでは。
- 石がきを作ってくずれにくくしている。
- 石をしいているので、雨の日にもぬかるまな
いし、土が流れるのをふせぐことができる。



古代の山陰道は……

中央政府と地方の国府が連絡をすみやかに行うために、
最短のコースで道路が整備されました。

したがって、写真（松江市の松本遺跡）のように、山を
けずって「切り通し」をつくる大工事も行われたようです。